



IFALPA Dangerous Goods Committee を東京で開催！(その2)

1. 耐火性に優れたアラミド繊維製コンテナ

近年のバッテリー火災が問題視される中、耐火性に優れた貨物コンテナを開発した(株)帝人によるプレゼンテーションが行われましたので、簡単にご紹介します。

新型コンテナはアラミド繊維という素材で出来ており、従来のカーボン製貨物用コンテナに比べて強度は劣りますが、軽量で耐火性・耐摩耗性・耐熱性・耐衝撃性に優れているそうです。通常、コンテナの寿命は10年程度であることから、毎年10%程度買い替えていくのが通例です。従来型コンテナとほぼ同価格であることから、今後、新型コンテナの普及が期待されます。



帝人社製 アラミド繊維コンテナ



従来型コンテナ (左図と同型コンテナもある)

2. バッテリー関連のチェックリスト

エアバス A320 のFCOM (Flight Crew Operations Manual) に「リチウムバッテリーからの火災／煙」というチェックリストが新設されたことは、DG 委員会から既にご紹介(参照:[DG World Topics 39-01](#))した通りです。今 Committee で、エールフランスのパイロットから、B777 のQRH (Quick Reference Handbook=チェックリスト)にバッテリー火災に関するチェックリストが設定されていることが紹介されました(後日、ALPA Japan がボーイング社に問い合わせたところ、ボーイング社が設定しているFCOMのオリジナルQRHにはこのチェックリストは存在しておらず、エールフランス社独自のチェックリストだということが確認されました)。そのチェックリストには、Pilot が記憶で行う、いわゆる“メモリーアイテム”も含まれており、エールフランス社のバッテリー火災に対する意識の高さが感じられます。

メモリーアイテムの内容としては、① 適切なコントロールの受け渡しを行う、② 状況に応じて、酸素マスクやスモークフードを装着する、③ 発火物を操縦室からグローブなどを用いて移動させる、④ 消火器を用いて消火に努める、の4項目が記載されています。過去、ドバイにおけるUPS貨物機の墜落事故では、バッテリー火災による煙で視界が制限され“Fly First”が上手く出来なかった事例あり、①～④は状況に応じて優先度を考える必要があると付け加えられています。

8.6 AIRFRANCE
777 Flight Crew Operations Manual

Fire Lithium Battery

Condition: Fire or smoke from a lithium battery occurs in the flight deck.

Objective: To fight the fire.
To remove power from the device.
To move the device out of the flight deck.
To cool the battery and stop a thermal runaway.

- 1 Transfer flight controls to the most appropriate flight crew member.
- 2 Don the oxygen mask(s) or smoke hood(s) depending on the location of the fire.
- 3 Move the device out of the flight deck using gloves, if needed.
- 4 Use the fire extinguisher on the device.

- 5 Call cabin or supernumerary crew for assistance.
- 6 Remove power from the affected equipment, if needed.
- 7 **After** the fire is extinguished, consider continuing to use the protective breathing equipment due to halon use.

▼ Continued on next page ▼

8.6 Copyright © Air France - All Rights Reserved 2012 April 28, 2016

8.7 AIRFRANCE
777 Flight Crew Operations Manual

▼ FIRE LITHIUM BATTERY continued ▼

8 Choose one:

- ◆ The device **is in** the flight deck:
 - Water the device with a non-alcoholic liquid to cool and prevent additional battery cells from reaching thermal runaway.
 - Do not use ice.
 - Do not cover with a blanket or towel.
 - ▶▶ **Go to step 9**
- ◆ The device **is out** of the flight deck:
 - Drop the device in a PED kit or a container filled with water or other non-alcoholic liquid to cool and prevent additional battery cells from reaching thermal runaway.
 - Do not use ice.
 - Do not cover with a blanket or towel.
 - ▶▶ **Go to step 9**

9 **Anytime** the smoke or fumes becomes the greatest threat:
▶▶ **Go to the Smoke, Fire or Fumes checklist on page 8.8**

10 Diversion may be needed.
■ ■ ■ ■

8.7 Copyright © Air France - All Rights Reserved 2012 April 28, 2016

エールフランス社独自のチェックリスト

3. 最後に

バッテリーは主に日本や韓国で開発され、その多くが中国を中心としたアジア諸国で量産されて世界中に輸送されています。バッテリーの安全な航空輸送に関して、日本を含めたこれらアジア諸国が議論へ参加することが不可欠なことは間違いありません。そういう意味からも、今回 IFALPA DG Committee が東京で開催されたことは大変意義深いことでした。

しかし、残念ながら今回の会議への日本以外のアジア諸国からの参加という点では不足点が残ります。今後は、東アジア諸国を中心とした国々のメンバーからも積極的な参加が望まれます。

一方で、日本開催ということから、IBEX 乗員組合など主に国内線を担う地域航空のメンバーが参加することが出来たことは、安全運航達成に重要で深く関わりのある危険物輸送を議論するきっかけとなる素晴らしい機会となりました。

今後も ALPA Japan DG 委員会は、ALPA Japan 加盟組合メンバーや IFALPA と共に、危険物輸送の安全向上に向けて積極的に取り組んでいきます！

以上

